



平成28年1月1日発行

発行：香川医療生活協同組合
高松協同病院

発行者：院長 北原孝夫

編集：高松協同病院 広報委員会

H P: <http://t-kyodo.com/>

新年のごあいさつ



高松協同病院 院長 北原孝夫

明けましておめでとうございます。昨年从高松協同病院の院長の任に就き、新しい年を迎えるに当たり自身としてもあらためて身の引き締まる思いです。この間様々な病院やクリニックの先生方、スタッフの方々とも親交を深める機会に恵まれ、お互いに顔の見える地域連携の大切さを実感しております。これからも入院患者にはもちろんのこと、外来リハ、訪問リハ、通所系サービス等あらゆる場面でリハビリテーションの理念を地域の中に浸透させていく使命を果たしていく決意です。地域包括ケア時代に向けて、今後も医師、歯科医師、看護師、介護士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、歯科衛生士、医療ソーシャルワーカー、医療事務等のチームみんなで協力して、個々の患者の方々や地域で暮らす方々全体のADL及びQOLの向上を目指していくという当院の特徴をさらに活かしていくよう頑張ります。今年も何卒よろしくお願い申し上げます。



高松協同病院 副院長 植木昭彦

あけましておめでとうございます。

昨年8月に副院長になりました。新院長ともどもよろしくお願い申し上げます。

高松協同病院の経営母体である「香川医療生活協同組合」は、その名の通り生協の組織です。私たちがこのような医療や福祉を生協の形でおこなっている全国組織には、「医療福祉生協の理念」が存在します。

医療福祉生協の理念

健康をつくる。平和をつくる・いのち輝く社会をつくる。

そのために地域まるごと健康づくりをすすめます。

地域住民と医療や福祉の専門家が協同します。

多くのひとびとの参加で、地域に協同の“わ”をひろげます。

激動の1年であった2015年が、後に歴史の転換点と言われないよう、高松「協同」病院でできることを地域や社会ですすめていきたいと思っております。



高松協同病院 室長 田中眞治

新年おめでとうございます。昨年より在宅医療の担当をするようになりました。長年在宅で療養している方、通院ができなくなって在宅療養を始めた方、自宅だけでなく施設に入所している方々も訪問しています。

病状は一人一人異なっていますし、療養の環境、ご家族の状況もみんな違っています。そんな中で私がいちばん大切にしたいと思っているのはどんな状況であれご本人のいちばん望むことをかなえること、またその時々々の病状に合わせていちばん良いと考えられる療養環境を整えるということです。

香川医療生協には平和病院内にがんの末期の症状を和らげるための緩和ケア病棟、急な病気の治療を行う急性期一般病棟、在宅復帰を支援する地域包括ケア病棟、高松協同病院の回復期リハビリ病棟、その他訪問看護リハビリなど医療や介護のサービスがいつでも利用出来る体制があり、在宅で療養している患者さんには大きな支えになっています。患者さんと香川医療生協の医療介護の資源をつなげていつでもどこでも質の高い療養ができるよう尽力する所存です。いつでもご相談ください。



リハ研 家族会

今年度、8回目になる「協同病院リハ研」が開催され職員約40人が参加しました。今年のテーマは「家族」、各職場・チームで毎月取り組んできましたが、今回の担当は外来リハビリテーション科、「高次脳機能障害者の家族」でした。

高次脳機能障害は理解されにくく、外見からは障害と分かりにくいいため、家族の負担感も大きくなりがちです。

外来リハ科では、独自に高次脳機能障害患者の家族会を開催し、その後の家族の変化を追跡し、個別のサポートを行ってきた様子を報告しました。

家族会には10人が参加、障害についての説明、どう対応するかの基本、利用できる在宅サービスを紹介し、その後自由に疑問、不安、悩みを出し合い交流する場を設けました。参加したご家族は「次回も参加したい」が9人に上りました。

外来リハ科では、その前後の家族の様子を調査用紙で分析、介護負担感が増したご家族に対しては、個別に「家族の想い、困っていること、悩み」を聞きとり、具体的な解決策を提案する取り組みを行い、介護負担の軽減につなげることができました。

障害をもつ患者本人だけでなく、患者を直接支える家族に、どう向き合うか、リハビリスタッフにとって、大きな学びになっています。

※「リハ研」：高松協同病院の理学・作業・言語療法士（92名）が合同で毎月1回行っている研究会。

<家族会内容>

【講義】
高次脳機能障害の基礎知識、ADLでの対応方法、利用可能なサービスなど。

【交流会】
講義についての疑問点、疾患に対しての不安、悩み、予後について。

【参加家族】

10名

【参加スタッフ】

PT2名、OT2名、ST1名



げんき会 ~2015年秋の遠足~

今年の秋の遠足は、ことひら琴参閣・善通寺でした。協同病院のバスガイドさんの笑顔あふれる案内で、移動中も楽しいひと時でした。

ことひら琴参閣にて散策・昼食

各々に分かれてことひら琴参閣周辺を散策しました。金刀比羅宮の階段まで行かれる方、温泉に行かれる方、お店の試食コーナーで秋の味覚を楽しまれる姿も見られました。皆さま家族へのお土産や孫へのプレゼントを両手に抱えて琴参閣に戻って来られました。お土産話もたくさん教えていただき参加職員も嬉しくなっていました。

昼食は、ことひら琴参閣の3階にてお刺身やしゃぶしゃぶを始めとした懐石料理のごちそうでした。豪華な食事を頂きながら、参加者・スタッフとの交流を深めることができました。

参加者の中には、自宅での食事に食欲が湧かない方も久しぶりに豪華な食事に刺激されてか、たくさん召し上がり「食べ過ぎた」と笑顔でお腹をさする場面も見られました。皆様食事に大満足されていました。

善通寺参拝

参加者の中には、善通寺に参拝したくても遠くて移動手段がないため、あきらめていた方もおられました。善通寺の参拝中に小雨が降りましたが皆様無事に参拝できました。お守りを購入される方や常香塔の煙で身を清める等、有意義な時間を過ごせました。

滝宮の道の駅

帰りに道の駅に立ち寄りました。トイレ休憩後には、お土産コーナーに行かれました。特産物の野菜がたくさんありました。

最後のお土産を購入されて帰りのバスの中は、お土産がたくさん並んでいました。晩の食卓には、お土産話に包まれた笑顔と新鮮な野菜が登場したのではないのでしょうか。

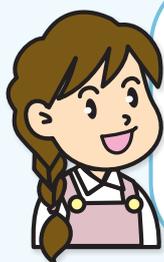


最後にげんき会に参加してくださった方々の笑顔にスタッフも元気をもらいました。今後も皆様が楽しんでもらえる企画を考えていきたいと思っております。次回の新年会・春の遠足もぜひ参加して頂けることを職員一同、楽しみにしています。

症例検討会 「就労支援 ～道～」

協同病院では全ての職種(職場)が参加する症例検討会を毎年、開催しています。

今年のテーマは「就労支援 ～道～」。大学卒業直前に脳卒中片麻痺になった20代女性が、当院でリハビリを続け、就職するまで(約1年間)、どう支えてきたのかの経過を追いました。平日の業務終了後にも関わらず、73人が参加しました。当院の多職種が協働した取り組みに誇りをもてた、全職種症例検討でした。感想文からいくつかを紹介します。



「若年であり、これからの生活や就労についてどうするか担当者が頻りに相談していた。自立した生活が送れるよう、また女性としての視点も大切に、こんな動作が必要かと、こんなこともしたいと、患者さんも交えて、お互いに提案や希望を出し合いながらリハビリをすすめていったことが、次の目標、人生につながったのだと思う」(看護)

「回復期リハ病棟から外来リハと連続して細かい目標設定ができていて、それを達成することが本人の成功体験になり、就職につながった。希望を取り入れながらリハビリを続けられたことは、スタッフとの信頼関係が強かったからだと思う。」(リハ)



学習会講演 -アフリカの医療について- が開かれました

11月21日(土) 13時30分よりザンビア共和国で精神科医をされているジョセフ・ピーリー先生をお招きし、職員対象にしたザンビアの医療情勢や精神科医の立場からの貴重な講演を通訳の方を介していただきました。

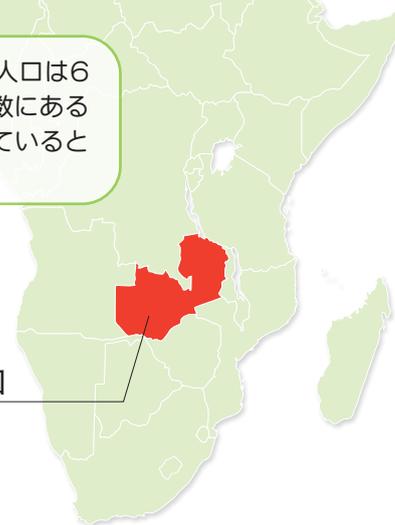
医療状況は、国民皆保険制度はなく、経済的余裕のある国民が会員になって病院にかかったり、また薬剤が不足しているがために治療が遅れての重症化、HIVを含む感染症などによる平均寿命は男性55歳、女性57歳と日本とは20歳以上も大きな差があり、驚く情報ばかりでした。勿論、疾病でいうと認知症、施設では高齢者施設など高齢化に伴う日本特有の問題はなく、基本的にはザンビアでの高齢者は大事にされ、家族で看取るというのが慣例だそうです。日本でも古き良きそういう時代があったはずですが…。精神科医の立場からは精神科領域での支援の不十分や自らの体験を含めたお話をいただきました。

今後も国際交流を兼ねたこういった取り組みが少しでも実施できればと思います。



ザンビアは国土面積は日本の2倍なのに人口は6分の1と少なく、少数が暮らす集落が無数にあることと、主な産物は銅で日本にも輸出しているという特徴があります。

ザンビア共和国



通所リハビリテーション

あけましておめでとうございます。

通所リハビリでは、月に2~3回程ではありますが、大正琴やマジックショー・竹笛・フラダンス・日本舞踊・演奏会等さまざま分野で活動されているボランティアさんをお招きし、利用者様を楽しませて頂いています。利用者様からも好評価を得られていますので、今後も積極的にボランティアさんを受け入れていきたいと思っております。

2016年度も通所リハビリをどうぞよろしくお願い致します。



介護支援センター協同

明けましておめでとうございます。

当事業所では、本人様・家族様の望む暮らしに少しでも近づけるよう日々奮闘しています。また、組合員班活動にも参加し、介護保険の説明や、介護相談にのっています。介護保険について分からないことがあれば、当事業所に気軽にご相談ください。

新入職員
紹介

細川CM：昨年12月よりの勤務。
早く仕事に慣れ楽しく仕事をしたいと思っております。



平井 大西 田原 細川 中留

訪問リハビリテーション

明けましておめでとうございます。

訪問リハビリ科専従となって半年が経ちました。在宅分野の言語療法士として日々勉強中です。少しでも、ことばや飲み込みに問題がある方の力になればと思っています。いろいろご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、本年もよろしくお願い致します。

高松協同病院 訪問リハビリテーション科
言語聴覚士 藤村大輔

